



コロナ禍における 地域とのつながりについて

社会福祉法人東京蒼生会 大森老人ホーム

丸山浩史・福原見奈



- ・1997年(平成9年)開所
- ・デイサービス・体育館・児童館・都営住宅
- ・シルバービアがある複合施設
- ・2003年(平成15年)より地域貢献・交流に取り組み開始
　　地域貢献・地域交流 18事業
　　(2019度事業報告書より)
- ・コロナ禍の取り組み
　　地域貢献・地域交流 8事業
　　(2020年度事業報告)



みまもり隊 ボンティアパトロール



☆2016年7月から行っている
利用者主体のボランティア

☆近隣の小学校の登校時間

7：50～8：20

☆2020度実績

年間153日のべ789名

☆現在活動登録者 6名



活動にあたり

- 入所者の方が安全にできる

- 屋根がある天候に左右されない
ホーム玄関前に限定
- 入所者の保険の充実
(野外でも支給される保険)

- 地域にもホームの取り組み
を知ってもらう

- 小学校、PTAに事前相談。
- ホーム広報誌で紹介

- 継続的な活動にする

- 設定した時間内で、個々が無
理なくできる時間、日程で参
加を呼びかけた



**活動をつづけるなかで…
小学生だけでなく中学生、高校生
保育園児、保護者、住民や通勤途
中の方などなど…
あいさつの輪が広がっている。**



コロナ禍での活動変化

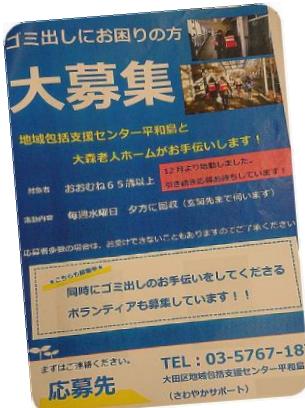
- ☆感染症対策強化のため
2020年2月から一時中止。
2020年6月22日から再開活動
(学校再開にあわせ)
- ☆マスク着用・距離を保つ。
小学生と握手やハイタッチ
をしない。
- ☆小学校に活動再開を連絡。
広報誌にも掲載。

- ☆再開初日、小学生と
「久しぶりだねえ」
「元気だった？」など挨拶が
はずんだ。

- ☆ホーム職員も利用者も、
コロナ禍の中でも変わらな
い安心を感じた。



ゴミすて隊



- ☆2016年12月～
- ☆都営住宅のごみ捨てのニーズについて包括支援センター相談。
- ☆都営自治会、住宅供給公社に提案、協力を求めた。
- ☆必要な備品はホームで保管することになった。



活動について



- ☆毎週水曜日活動
地域包括支援センター 第1、4
大森老人ホーム 第2、3
第5週は交代制
- ☆昨年度の実績
50日間 職員(ホーム 包括)50人
☆対象者 3世帯



- ☆コロナ禍での活動変化
感染症対策を行い継続している
(手袋、ゴミの取り扱い方)



- ・「ホームDEランチ」
- ・月3~4回 地域高齢者に提供



- ・「紙面版ホームDEランチ」
- ・ホームと地域包括支援センターと共同制作し参加者に返信ハガキ同封し送付した。

紙面版ホームDEランチ

笑いでコロナ禍を乗り切ろう！

紙上DEランチ

大森本町八景

大森本町は自然豊かな公園地帯で、せめてでも楽しむだけだと想い、せめました。今春日のために、足を運びませんか、気持ちも晴らぐのではないかでしょうか。

（脚注）大森本町八景

大森本町は自然豊かな公園地帯で、様々な動植物が生息して、私たちを感じてくれます。コロナ禍で寂さを感じました。うう、うわやかなな気分感じられないはいけない。

ごくごく近くのアリババは幸運の公園で、大きな木の子供たちが作成したものです。

大きな木の子供たちが作成したものです。



返信について

みなさんのご様子を教えて下さい。
下記を記入してポストに投函ください
●ホーム DE ランチがお休みになってから、
体調に変化ありましたか？

1. 特に変りなし。元気です。
2. 以前より元気がなくなった。
体調に変化あった。

自由記述・外出していますか？
コロナ禍で何か始めたことはありますか？
どんなことでも良いのでご記入ください。

大森老人ホーム 地域交流担当

☆24人中12人から返信あり
「まだつながってることに安心した」
「85歳になって友人と会話やお茶が
できないのはつらいです」

「ホームから年賀状もらって嬉しかった」
「皆さん会いたいです 再開待ってます」

☆ホームからの発信を続けてい
く大切さを感じた。

☆現在第2弾紙面版ホームDEランチの發
行を進めている

☆ホームDEランチの再開方法を
模索している。



コロナ禍での活動

感染症対策に追われ、先も見えない不安な日々の中…

☆活動を継続できたことで、関係性が保てた。
変わらない『つながり』に安心感を持てている。

☆形が変わっても発信をしたことに反応があった。
後押しされている嬉しさを感じた。
継続の責任、活動への原動力になっている。

コロナ禍でも、今までのつながりは続いている。
コロナ禍でも、途切れかけたつながりは回復できる。
コロナ禍でも、感染症対策をしながらつながり続けたい。

